

令和5年度徳島県立近代美術館協議会会議録

1 日時 令和5年度11月28日（火） 10:00～12:00

2 場所 徳島県立近代美術館講座室

3 出席者

[委員] 10名中8名出席

4 会議次第

① 開会

② 館長挨拶

③ 委員紹介・職員紹介

④ 議事

(1) 会長・副会長の選任について

(2) 令和4年度事業実施状況について

(3) 令和5年度組織・予算及び事業概要について

(4) 中期計画・中期目標について

(5) その他

⑤ 閉会

5 会議概要

① 委員長・副委員長の選任について

委員長に小川委員を、副委員長に岡田委員を選任

② 令和4年度事業実施状況並びに令和5年度組織・予算及び事業概要について

事務局から説明

③ 質疑応答

委員	駅周辺の文化施設では外国からの観光客が増加してきていますが、文化の森での外国人の来館者数については変化がありましたでしょうか。
事務局	統計は取っていませんが、急激な増加なく時折お見掛けする程度です。
委員	文化の森の施設と駅周辺文化施設とは条件が違うところがありますが、徳島に訪れる外国からの観光客に目を向けるのも一つの起爆剤になるかと思えます。 特別展の展覧会の本数ですが、昨年度は5本、今年度は通常通りとなっていますが、年度ごとに展覧会の本数が変わっていることについて何かあ

	るのでしょうか。
事務局	前年度は工夫をして本数を増やしており、予算は増えておりません。日本の戦後彫刻展やカミのかたち展は所蔵品を最大限に活用することと、経費を抑えることで展覧会を開催しております。通常行っているポスターをカットし、図録を解説小冊子にするなどして経費を抑え展覧会を実施したところです。 今年度の特別展は3本ですが、開催日数を長めに確保しております。
委員	外国人の訪問ということについては文化の森はアクセスがしづらいということもあるかと思います。 展覧会の情報があまりしられていないことが残念に感じます。実際に美術館のみなさんが広報活動にも力を入れていることは今回の報告で分かりましたが、新聞などよりも映像コンテンツを使った広報が有効なのではないかと思います。ディーン・ボーエン展ではNHKなどで特集をされていましたが、夕方の番組やローカル番組で単独で取り上げられることが難しくても今週の文化の森といった枠を持ってもらうことはできないでしょうか。テレビの宣伝のように広報において繰り返しは非常に有効だと思いますし、SNSでの情報発信も分析し多く人に知ってもらえるようにしてほしいです。 徳島県における外国人の割合については、100人に1人という時代はもう通り過ぎており、外国人のうち90%以上をアジア圏が占めています。その子ども達にとって、自分の国の美術が紹介されると嬉しく誇らしく感じると思う。様々の国の紹介をするアジアの美術展を開催する、それを学校との連携に繋げることができると思うので考えてほしいです。
委員	こちらの近代美術館の基本理念を拝見いたしますと、近代、現代美術を中心とした文化活動を先導し、芸術文化情報を発信するとあります。先ほども徳島の外国人の数が増えているとありましたが、この理念をもとに、近代美術館には文化芸術による地域の活性化が期待できます。多くの地域が過疎化の問題を抱えており、金沢21世紀美術館や十和田市現代美術館などで現代美術による地域の活性化を目指す事例もあり、地域の魅力や知名度のアップ、観光客の誘致などの経済効果がある他、地域の人々の精神的な満足度、地域に対する愛着や満足度が生まれるそうです。 文化の森総合公園は子どもから高齢者まで訪れる場所ですので、近代美術館で大型の体感できる現代美術の作品や、直観的で分かりやすさで人々

	を楽しませることのできる作品を見せること多くの方が美術に興味を持つきっかけになるのではないかと考えます。平面の作品や徳島の作家の作品を大切にしながらも、徳島の芸術文化を先導する機関として新しい活動にも期待しております。
委員	高齢者の人口が増加する中、またコロナ禍の変動の中で、高齢者に対する取り組みがあれば教えていただきたいです。
事務局	高齢者に対する活動という質問ですが、デイサービスへの見学誘致があります。昨年度の「思い出のアルバム展」は高齢者の方に見ていただきたい企画でしたが、コロナの影響もあり中々来ていただくのが難しい状況でした。実際に連れてきても良いのか、施設の方に見学してもらい、今年の春にお試しで見学に来てもらいました。好評で手ごたえはありますがコロナの影響で大々的に広報することができておりません。 外出先として美術館に滞在してもらい、少し変わった時間空間を使って頂くということを試したところです。
委員	高齢者施設でも子どもたちに行っている出前授業のような出前出張で、いくつかの作品鑑賞する機会なども検討していただければと思います。
事務局	一度、掛図だけ持って行ったのですが、あまり上手くいきませんでした。展示室は変わった空間という場所に意味があり、アートに興味のある人もそうでもない人も沢山お話していただけたこともあり、行くより来ていただければと思っています。変わった時間がそこで作られているということ意識して掛図の使い方の工夫ができればと思います。
委員	やはり美術館は人に迷惑をかけないように静かにいなければならないという意識があり、ノイズを流すという取り組みをされているかと思いますが、子ども連れの家族が子どもと喋りながら鑑賞しても良いということSNSなどで積極的に発信していただければ、より近代美術館の魅力が広まると思います。
委員	若い人たちにアプローチしようと思うと、今のYouTubeの登録者数はものたりないと思います。例えば、学校連携などを一回の取り組みではなく、YouTubeに残すコンテンツとして長く使い勝手の良いものになるかと思いますが、登録者数も増やそうと思うなら、地元の機関とも連携していけばよいと思います。 SNSのメディアによってどういうコンテンツを伸ばすかは異なってくるので、例えば、学芸員の研究は学会などで学芸員には伝わるけど一般の人には伝わらないというところで、面白い発見を発信していくにはXは扱いやすいコンテンツかと思います。 また、学芸員の方が多忙で発信が難しいかと思いますが、例えば、大

	学生のボランティアが学芸員に作品についてヒアリングをして、その上で発信していくなど外部と連携していくのは面白いと思います。
委員	子どもワークシートの中高生向けのワークシートを制作、配布されていますでしょうか。
事務局	中高生向けは制作しておりません。対象は小学校の中学年から高学年をターゲットにしています。中高生向けはなかなかそこまで手が回っていない状態ですので、検討してみたいと思います。ただ遠足で来られる率は小学生が圧倒的に多いため、どうしてもそちらに集中してしまうことが現状です。検討させていただきます。
委員	学校の先生や親御さんも美術館に対して敷居を高く感じている方が多くいると思いますので、そういったところの発信というのは力を入れていけば、子ども達の美術に対する興味関心を深めていけるとと思います。
委員	インバウンドを利用しながら、近代美術館の理念をもとにした活動を期待していきたいと思います。家族連れの方から高齢者の方まで訪れるということで、その方々が楽しめる例として、動く展示「テオ・ヤンセン展」という巡回展がありまして、一か月半で約3万人の来館者を記録しております。近代美術館でもできる範囲のこのような展示をすることで、来館者が楽しんで美術に愛着を持つことができるのではと考えております。
委員	障害のある子どもや小さな子どもたちを美術館に連れてくるのは凄く勇気が必要です。なるべくダメと言わなきゃいけない環境には連れて行きたくないので、触っても良い展示や触らなくても見やすい展示があるのならばもっと子どもたちを連れていきたいと思います。
委員	広報活動で色々なコンテンツがあるかと思いますが、根強いのは口コミかと思います。今いる人、県民の方たちに想いを馳せて、どのような展示や企画があれば喜んでもらえるのか、今も常々お考えなさっているかと思いますが、それを口コミで広めていければと思います。
委員	口コミとありましたが、ボランティアさんも広報担当者として身近な人にお声がけしていただいたり、ボランティアさん自体がお客でもありますし、人との繋がりが重要かと思います。